

## 平成30年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「鍛える」「見守る」「高める」をキーワードに、「知・徳・体」のバランスの取れた人材、将来において社会で自立できる人材、社会に貢献できる人材を育成するというコンセプトのもと、次の4点を本校のめざす学校像とする。

- 1 すべての生徒の学力を3年間でより一層向上させ、進路希望を実現する学校
- 2 生徒一人ひとりが充実した学校生活を送り、「行って良かった」と思える学校
- 3 保護者・地域等と連携し、共に生徒の主体的成長を積極的にサポートする学校
- 4 学校教育目標の達成に向け、教職員が丸となって日々の教育活動に組織的に取り組む学校

※「鍛える」：生徒の頭（学力）、体（体力）、心（精神）を鍛える。

※「見守る」：生徒の自主的、自発的な活動を見守る。

※「高める」：感性、人間性、社会性、人権感覚、国際感覚を高める。

## 2 中期的目標

## 1 学力・進学保障—生徒のモチベーションを向上させ、学力の向上と進路目標の実現を図る

(1) 教志コース（教員養成系コース）を定着させる。

ア 1年生を対象にしたコースのガイダンスの充実を図り、生徒一人ひとりが将来の進路を見据えてコースを正しく選択できるようにきめ細かい指導を確立する。

イ 2年生の設置科目「教志入門」の内容を充実するとともに、効果的な運営方法を確立する。

ウ コース生が講義記録と報告、実地実習の記録と報告、レポート課題の作成等を主体的に行うことにより、進学意欲やICT活用能力の向上を図るとともに、学習内容や学習評価の合理化、効率化、適正化を図る。

※ 教志コースを含めて、志高く（高校での目標を持って）入学してきた生徒の割合を90%以上にする。

※ 平成30年度入学生のうち、コース選択生徒の卒業時の満足度を90%以上にする。

(2) 学力向上・進路目標実現のための3年計画（「北高スタンダード」）の活用を図る。

ア 教科ごとに教科・科目の目標・到達度を設定する。

イ 授業の相互見学制度、教科ごとの研究授業を実施し、教科教育力の向上を図る。

ウ 積極的に上位校を狙う生徒や遅進生徒に対する指導の現状を集約し、対象生徒の状況（課題）に応じた支援をコーディネートする。

エ 授業の工夫・改善（ユニバーサルデザイン化、アクティブラーニングの導入等）を推進し、学力とりわけ思考力・表現力の伸長を図る。

オ 各種検定（漢検・数検・英検等）を推進し、基礎学力の伸長を図る。

カ 平成29年度学校経営推進費により設置された電子黒板機能付きプロジェクターの導入により、授業改革を行いさらなる学力の向上を図る。

※ 生徒向け学校教育自己診断における学力向上・進路目標実現に向けての生徒の努力度を「よくあてはまる」、「あてはまる」で80%以上とする。

※ 生徒向け学校教育自己診断における平日の家庭学習時間を1年生70分以上、2年生80分以上、3年生240分以上とする。

（平成29年度はそれぞれ55.8分、51.2分、181.7分）

※ 進学実績について、生徒の第一希望を叶えることを目標として、大学進学希望者について、3年生1学期段階での進路希望先を達成できた生徒の割合90%以上にする（H29年度実績は、78.4% 大学進学希望者に対する関関同立、国公立大学等への合格率は15.8%、産近工龍（工は大工大）等の大学への合格率は27.4%）。

## 2 学校生活—規範意識の高揚を図り、安全・安心な学校生活を送ることのできる学校作り

(1) 規範意識の高揚を図る—遅刻、服装、頭髪、装飾品、自転車乗車マナー等。

(2) 安全・安心で意欲的な学校生活を推進する—あいさつ指導、環境(学習・生活)整備、高いレベルでの文武両道(学校行事・部活動の推進)、(障害者差別解消法に規定された)合理的配慮の合意形成

(3) 学校行事等の取り組みで生徒主体化を図る。

※ 生徒向け学校教育自己診断における高校生活における満足度を「よくあてはまる」、「あてはまる」で90%以上とする。

## 3 学校運営—プロとしての教員集団を組織化し、地域の教育資源を最大限に生かしながら、機動力のある学校運営を行う。

(1) 実務提要管理—電子データ化された実務提要(学校内規)の管理及び引き継ぎ体制の構築。

(2) ICTの積極的活用—校務運営システム(教育庁)と校内LANを最大限活用して生徒情報総合管理システムを構築し、校務運営の効率化を図る。

(3) 新任・若手教員に地元の小中学校などでの研修を通して、力量の向上を図る。

(4) 教志コースの充実、新教育課程に関する研修、教科教育力の向上などを視野に入れた施設設備・教材教具の改善と充実を図る。

(5) 高大連携の推進—教志コースの内容の充実をめざす。

(6) 地域連携の取組の定着・推進—地域行事や八中校区地域教育協議会への参画、北高アカデミアの実施等を通して、一層地域からの信頼を高める。

※ それぞれの取組を継続するとともに、各取組の内容の充実を図る。

※ 北高アカデミアの参加者数を200人以上(昨年度は186人)、満足度を95%以上とする。

## 4 広報—常に情報発信に努め、保護者・地域から信頼された、開かれた学校づくりを推進する。

(1) 広報活動の強化—学校説明会・ホームページ・メールマガジン・北高NOW等、校長ブログを通して、本校の取組の周知を図る。

(2) アドミッションポリシーの周知

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>【学力・進学保障】</b></p> <p>・電子黒板機能付きプロジェクターの全普通教室への設置により、使用率は大幅に改善され、その結果授業の満足度も昨年度の77%から82%と5ポイント上昇することができた。</p> <p><b>【学校生活】</b></p> <p>・自転車運転マナー向上に関して登下校時の指導を全教員に呼びかけ1年間を通じて実施した。その結果登校時のけがによる保健室利用者が50件から43件に減少した。(但し苦情件数30件と上昇)</p> <p><b>【学校運営】</b></p> <p>・新任・若手教員の満足度が62%から48%と14ポイントとも下がっており、今後に向けて若手教員育成に向けて具体的な対策が必要と感じている。なお今年度は新任教員がいなかったことも数値の低い一因だと推測する。</p>	<p>第1回(平成30年6月22日)に開催</p> <p>・若手教員の指導と校内研修の満足度が52.6%と低くなっているが、若手教員が何を求めているのかを把握する必要がある。</p> <p>・授業以外での学習時間を定着させるには1年生の時から家庭学習時間の習慣化が大切。</p> <p>・北高スタンダードの生徒への周知及び達成状況の確認</p> <p>第2回(平成30年12月3日)に開催</p> <p>・電子黒板の使用率が高くなっていることは大変好ましいが、使い方の研修会を実施し教員のスキルアップと情報の共有化と蓄積が必要。</p> <p>第3回(平成31年1月29日)に開催</p> <p>・学校独自の質問項目を検討し、生徒が主体となる問いかけが必要ではないか。</p> <p>・将来どのような社会人(大人)を育てたいかを具体的に描き、そのための方法を生徒と共に見つけ出す努力を期待している。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学力・進学保障	<p>(1)教志コースの充実</p> <p>(2)生徒の学力の向上と進路目標実現に向けての組織力の向上</p>	<p>(1)</p> <p>ア 教志コース委員会メンバーが中心となって、1年生(43期生)に対するコース選択に向けての取組の具体(ガイダンス・プレイベント等)について計画し、実践する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 教科ごとに教科・科目の目標・到達度を設定し、定期考査等の結果から取組の点検・評価を行う。</p> <p>イ 電子黒板機能付きプロジェクターを活用するなど、ICTを活用した授業を実施することにより、学力とリわけ思考力、表現力の向上につなげる。</p> <p>ウ 授業の相互見学制度・教科ごとにICTを活用した研究授業を行い、教科教育力の向上を図る。</p> <p>エ 進学校としての意識を醸成するとともに北高スタンダードを活用する。特に学力向上・進路目標実現に向けた取組(下記①～⑦等)について、効果的な実践を図る(特に懇談の充実を図る)。</p> <p>① 定期考査・学力生活実態調査・模試</p> <p>② 各種検定(漢検・数検・英検等)の推進</p> <p>③ A・B講座・チャレンジ合宿等の補習・講習</p> <p>④ 懇談(生徒・保護者・三者・クラス・学年)</p> <p>⑤ 科目・コース選択説明会・進路別説明会・大学見学</p> <p>⑥ 担任会・拡大学年会・教育相談委員会</p> <p>⑦ 追認関係・判定会議</p> <p>オ 読書活動推進のため、図書館活性化を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 教志コース生としての取組の満足度85%以上。(昨年度83%)</p> <p>(2)</p> <p>ア 設定したものをホームページに掲載することや、その点検・評価ができたか。</p> <p>イ ICTを活用した授業(実施教員の割合)60%以上。(昨年度66%)</p> <p>ウ 教科ごと研究公開授業を1回以上、生徒の授業満足度80%以上。(昨年度77%)</p> <p>エ 活用度</p> <p>* 生徒向け学校教育自己診断における平日の家庭学習時間を1年生60分以上、2年生70分以上、3年生200分以上とする。</p> <p>* 進学実績について、平成30年度卒業生までに、4年制大学進学希望者について、3年生1学期段階での進路希望先を達成できた生徒の割合を80%以上にする。(なお、めやすとして関関同立、国公立大学等への大学合格者を20%以上(昨年度15.8%)に、産近工龍等の大学合格者を30%以上(昨年度27.4%)</p> <p>* 各種検定への延べ参加人数 前年度を上回る。</p> <p>オ 図書館利用者数(書籍貸出数)前年度比10%増加。(昨年度25%) 昨年度の書籍貸出数585冊</p>	<p>(1)</p> <p>ア △満足度79%</p> <p>(2)</p> <p>ア ○ホームページに掲載した</p> <p>イ ◎生徒アンケートで94%</p> <p>ウ △授業の相互見学67%</p> <p>◎授業満足度82%</p> <p>エ 活用度</p> <p>* △平日の家庭学習時間、1年生52分、2年生56分、3年生170分(昨年度1年生56分、2年生51分、3年生182分)</p> <p>* △71.4%</p> <p>関関同立合格率 12.8%</p> <p>産近工龍合格率 9.3%</p> <p>* ◎各種検定への参加希望者29%(昨年度19%)</p> <p>オ ◎前年比41%増加(書籍貸出数846冊)</p>
学校生活	<p>(1)規範意識の高揚</p> <p>(2)安全・安心で意欲的な学校生活の推進</p>	<p>(1)</p> <p>ア 日常の指導はもちろん、身だしなみマナー向上週間を導入し、遅刻した生徒に対する早朝登校指導の徹底や、常習者に対する粘り強い指導、頭髪、装飾品も含めた規範意識の高揚を全教員で図る。</p> <p>イ 年度当初の取組や生徒指導キャンペーン及び外部機関を活用して、自転車乗車マナーの向上を図る。</p> <p>ウ 携帯を研修や啓発活動により正しく利用させる。</p> <p>エ 部活・学校行事を生徒主体で取り組ませる。</p> <p>(2)</p> <p>ア 清掃活動の徹底及び安全点検を定期的に行うと共に施設・設備の改善を図る。</p> <p>イ 生徒が率先して挨拶ができるよう、授業の始業時終業時のみならず、あらゆる機会において教職員が率先垂範して挨拶を励行する。</p> <p>ウ 教職員の救急講習会への全員参加</p> <p>エ 献血活動(文化祭時)の啓発</p> <p>オ 支援カードの閲覧方法を理解し、必要な時に有効活用する。</p> <p>カ 合理的配慮の合意形成を円滑に進める</p> <p>キ 部活の加入率を高め、学校行事を生徒主体で取り組ませる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 遅刻者数の1日平均を昨年度(11.4回)以下にする。</p> <p>イ 自転車に関する苦情件数及び自転車事故による保健室利用数を昨年度以下にする。(昨年度苦情数20件、自転車事故による保健室利用生徒53人)</p> <p>ウ 携帯指導件数の半減。(昨年度72件)</p> <p>エ 主体的取組めた生徒85%以上。(昨年度83.3%)</p> <p>* 生徒向け学校教育自己診断における高校生活における満足度85%以上(昨年度83.3%)。</p> <p>(2)</p> <p>ア 生徒向け学校教育自己診断における学習環境・生活環境の満足度80%以上(昨年度77.5%)。</p> <p>施設・設備の改善認識65%以上。(昨年度64%)</p> <p>イ 生徒向け学校教育自己診断における挨拶をしている生徒85%以上(昨年度81.9%)。</p> <p>ウ 職員の救急講習全員参加 昨年度95%</p> <p>エ 生徒の献血意義の認識90%以上。(昨年度87.3%)</p> <p>オ 支援カード有効活用70%以上(昨年度44%)</p> <p>カ 合意形成についての認識80%以上(昨年度74%)</p> <p>キ 部活動加入率及び、部活動学校行事の満足度85%以上(昨年度加入率80%、満足度83.3%)</p>	<p>(1)</p> <p>ア ○1日平均11.7回 ほぼ横ばい</p> <p>イ △苦情件数30件</p> <p>△保健室利用者数57件</p> <p>ウ △50件 目標値には届かなかったが22ポイントの減</p> <p>エ ○84%目標値に若干届かないが昨年よりも上昇</p> <p>(2)</p> <p>ア △70%と7ポイント減少</p> <p>◎68%と4ポイント増加</p> <p>イ △79%と若干の減少</p> <p>ウ △92.5%と若干の減少</p> <p>◎95%と7ポイント増加</p> <p>エ △35%と9ポイント減少</p> <p>オ △69%と5ポイント減少</p> <p>キ ○80%加入率は同率</p> <p>△77%満足度は6ポイント減少</p>
学校運営	<p>(1)学校力の向上</p> <p>(2)教師力の向上</p> <p>(3)地域連携</p>	<p>(1)</p> <p>ア 実務提要の効果的な利用</p> <p>イ 適切な改善・引き継ぎ方法の策定</p> <p>ウ 校務処理システムを活用し校務運営の効率化を図る</p> <p>エ ICT機器の導入に伴う、授業内容の効率化データの共有化を積極的に推進する。</p> <p>オ 一斉退庁日の周知を行い教員の勤務時間の削減及び効率化を図る。</p> <p>カ 生徒に最終下校時間を遵守させ、教員の勤務時間の削減を図る。</p> <p>(2)</p> <p>ア 新任教員に対する校内研修を充実し、初任教員がプレゼンする機会を増やす。</p> <p>イ 教科会議を充実させ授業のユニバーサルデザイン化を検討する。</p> <p>(3)</p> <p>ア 地域行事への参画、北高アカデミアの実施等を通して、より一層地域からの信頼を高める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 教職員の利用割合90%以上。(昨年度83%)</p> <p>イ 教員の改善認識80%以上。(昨年度は80%)</p> <p>ウ 校務処理システムの活用80%以上(昨年度88%)</p> <p>エ ICT機器の活用60%以上。(昨年度57.4%)</p> <p>オ 一斉退庁日における午後7時以降の勤務者を昨年より10%削減する。(昨年度人数287人)</p> <p>(2)</p> <p>ア 新任・若手教員の満足度80%以上。(昨年度62%)</p> <p>イ 教職員の改善認識80%以上。(昨年度88%)</p> <p>(3)</p> <p>ア 北高アカデミア参加者数200人以上(昨年度173名、但し雨天によるグラウンド種目中止のため)、満足度95%以上。(昨年度98%)、</p>	<p>(1)</p> <p>ア △63%と20ポイント減少</p> <p>イ ○79%ほぼ横ばい</p> <p>ウ ○85%3ポイント減少</p> <p>エ ○61%と2ポイント増加</p> <p>オ △14%増加(329人)</p> <p>(2)</p> <p>ア △48%と14ポイント減少</p> <p>イ ○79%</p> <p>(3)</p> <p>ア △参加者186人</p> <p>◎満足度98%</p>
広報	<p>(1)広報活動の強化</p>	<p>(1)</p> <p>ア 次の取組を通し、本校の教育内容の周知を図る。</p> <p>学校説明会</p> <p>ホームページの更新</p> <p>メールマガジンの定期的配信</p> <p>北高NOWの発行</p> <p>校長通信の定期的更新</p> <p>イ アドミッションポリシーの周知</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校説明会ー7回以上 参加者満足度90%以上。</p> <p>ホームページ50更新及び全部活・全行事更新、アクセス数5万以上</p> <p>メールマガ 40以上配信、北高NOW発行。</p> <p>校長通信 80回以上更新</p> <p>* 平成30年度入学生アンケート結果における、目標を持ち本校を受験した生徒の割合85%以上。(昨年度80.7%)</p> <p>イ アンケートによる理解度70%以上。(昨年度なし)</p>	<p>(1)</p> <p>ア ○8回開催 ◎満足度95%</p> <p>◎HP更新 80回</p> <p>◎アクセス数 68103人</p> <p>◎メールマガ更新 88回</p> <p>◎校長通信 149回</p> <p>* ◎目標を持ち入学 85%</p> <p>イ ◎73%</p> <p>H31.3.29現在</p>